

★ 認知症とは

認知症は、いったん正常に発達した知能が、何らかの原因で低下する知能障害です。

早期診断、早期治療が大事なわけ

認知症はどうせ治らない病気だから医療機関に行っても仕方ないという人がいますが、これは誤った考えです。認知症についても早期受診、早期診断、早期治療は非常に重要です。

治る病気や一時的な症状の場合がある

正常圧水頭症とか、脳腫瘍、慢性硬膜下血腫などの場合、脳外科的な処置で劇的に良くなる場合もあります。甲状腺ホルモンの異常の場合は、内科的な治療で良くなります。薬の不適切な使用が原因で認知症のような症状がでた場合は、薬をやめるか調整すれば回復します。ところが、こうした状態のまま長期間放置すると、脳の細胞が死んだり、恒久的な機能不全に陥って回復が不可能になります。一日も早く受診することが重要です。

早い時期に受診することのメリット

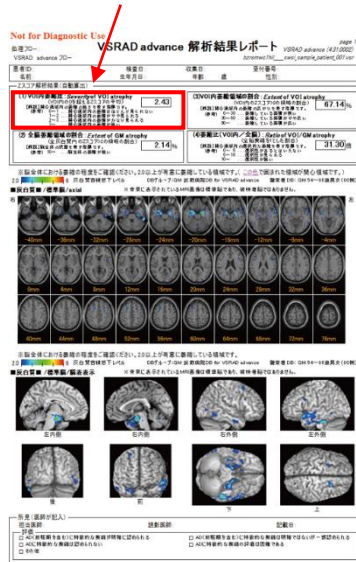
アルツハイマー病では、薬で進行を遅らせることができ、早く使い始めると健康な時間を長くすることができます。病気が理解できる時点で受診し、少しずつ理解を深めていけば生活上の障害を軽減でき、その後のトラブルを減らすことも可能です。障害の軽いうちに障害が重くなったときの後見人を自分で決めておく(任意後見制度)等の準備や手配をしておけば、認知症であっても自分らしい生き方を全うすることが可能です。

初期は専門の医療機関の受診が不可欠

認知症の診断は初期ほどむずかしく、高度な検査機器と熟練した技術を要する検査が必要です。専門の医療機関への受診が不可欠です。CT、MRI、脳血流検査などの画像検査、記憶・知能などに関する心理検査に加え、認知症のような症状を引き起こす身体の病気ではないことを確認する検査を行います。

当院クリニックでは、病歴や身体所見、血液検査(甲状腺機能低下など)、認知機能のインタビュー検査、画像診断の検査結果と必要に応じて脳波検査を総合的に判断して、専門的に診断いたします。認知機能のインタビュー検査としては、改訂長谷川式簡易知能評価スケールや認知機能の進行や変化を評価する専用のタッチパネル式の機器(ADAS-Jcog)を用いて検査します。また画像診断では MRI を撮影し専用の解析ソフト(エーザイ株式会社の VSRAD)を用いてアルツハイマー型認知症(AD)の診断を行っています。また頭部 MRI 画像を撮像することで、認知症かどうかだけでなく、脳の萎縮状態などからアルツハイマー型認知症や脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など認知症のタイプや、またどの程度病状が進行しているのかも、ある程度判断をつけることができます。

VOI 内萎縮度; 2以上で有意に AD 疑い



薬物療法やケアで進行を遅らせることが可能です

現在のところ認知症を完全に治す方法はありませんが、薬物療法やリハビリテーション、適切なケアを行うことによって進行を遅くしたり、症状を軽くしたりできる場合もあります。ある程度進行を遅らせておくことができれば、家族は病状が進行した時に備えて介護体制などについて準備を進められるなど時間や気持ちに余裕が生まれます。また、症状を抑えられれば、本人が穏やかに生活できるばかりでなく、介護者の負担も軽くなります。

薬物治療に主に使われているのは、抗認知症薬です。認知症全体の6割以上を占めるアルツハイマー一型認知症は、抗認知症薬で症状の進行を遅らせることが可能です。塩酸ドネペジル、ガランタミン、リバスチグミン、メマンチンの4剤が使えます。塩酸ドネペジルはレビー小体型認知症にも効果があります。また、興奮や徘徊などのBPSDが激しいときには、抗精神病薬や抗不安薬、抗うつ薬、漢方薬などを使うこともあります。

リハビリテーションには、脳の各部の機能低下を抑えるための書き取りや計算、音読のほか、「回想法」や「音楽療法」、「芸術療法」など、さまざまな方法があります。

また治療と同じくらい重要な役割を果たしているのが、ふだんの生活における家族の対応です。認知症特有の行動に対して、つい本人を叱りつけてしまいがちですが、本人が不安になるばかりでなく、症状も悪化します。認知症という病気を十分に理解したうえで、適切な声かけや接し方をしましょう。



認知症についてご心配があるようでしたら、お気軽にご相談ください。